

(19) 世界知的所有権機関
国際事務局(43) 国際公開日
2006年6月15日 (15.06.2006)

PCT

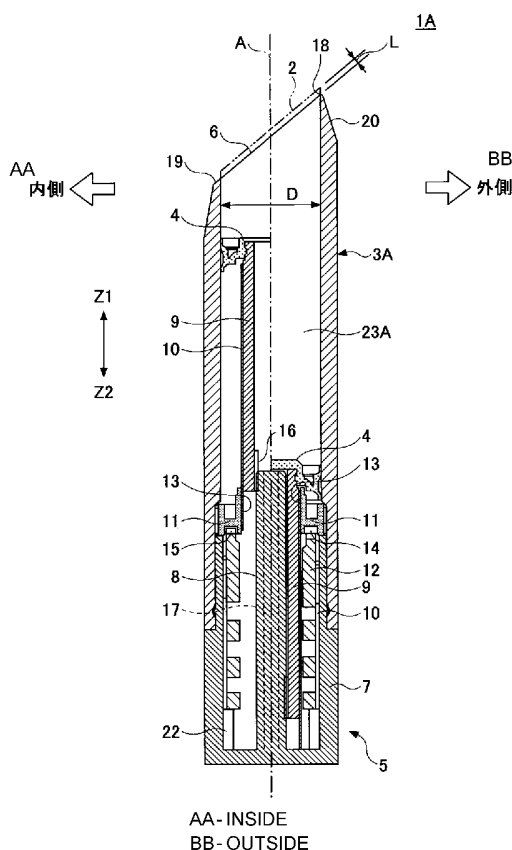
(10) 国際公開番号
WO 2006/062192 A1

- (51) 国際特許分類:
A45D 40/04 (2006.01)
- (21) 国際出願番号: PCT/JP2005/022665
- (22) 国際出願日: 2005年12月9日 (09.12.2005)
- (25) 国際出願の言語: 日本語
- (26) 国際公開の言語: 日本語
- (30) 優先権データ:
特願2004-357020 2004年12月9日 (09.12.2004) JP
- (71) 出願人 (米国を除く全ての指定国について): 株式会社資生堂 (SHISEIDO COMPANY, LTD.) [JP/JP]; 〒1048010 東京都中央区銀座7丁目5番5号 Tokyo (JP).
- (72) 発明者; および
- (75) 発明者/出願人 (米国についてのみ): 那須 美恵子 (NASU, Mieko) [JP/JP]; 〒2248558 神奈川県横浜市都筑区早渕2丁目2-1 株式会社資生堂 リサーチセンター (新横浜) 内 Kanagawa (JP).
- (74) 代理人: 伊東 忠彦 (ITOHI, Tadahiko); 〒1506032 東京都渋谷区恵比寿4丁目20番3号 恵比寿ガーデンプレイスタワー32階 Tokyo (JP).
- (81) 指定国 (表示のない限り、全ての種類の国内保護が可能): AE, AG, AL, AM, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BR, BW, BY, BZ, CA, CH, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DK, DM, DZ, EC, EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, HR, HU, ID, IL, IN, IS, KE, KG, KM, KN, KP, KR, KZ, LC, LK, LR, LS, LT, LU, LV, LY, MA, MD, MG, MK, MN, MW, MX, MZ, NA, NG, NI, NO, NZ, OM, PG, PH, PL, PT, RO, RU, SC, SD, SE, SG, SK, SL, SM, SY, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VC, VN, YU, ZA, ZM, ZW.
- (84) 指定国 (表示のない限り、全ての種類の広域保護が可能): ARIPO (BW, GH, GM, KE, LS, MW, MZ, NA, SD, SL, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), ユーラシア (AM, AZ, BY, KG, KZ, MD, RU, TJ, TM), ヨーロッパ (AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, HU, IE, IS, IT, LT, LU, LV, MC, NL, PL, PT, RO, SE, SI, SK, TR),

[続葉有]

(54) Title: STICK COSMETIC ADVANCING CONTAINER

(54) 発明の名称: 棒状化粧料繰り出し容器



(57) Abstract: A stick cosmetic advancing container used by being held by a user and used for a stick cosmetic, typically a lipstick, which is advanced for use from a sleeve. The stick cosmetic advancing container has a stick cosmetic, an interior dish, a tubular sleeve having at its head an application opening through which the stick cosmetic is advanced, and a movement mechanism for causing the interior dish to move within the sleeve. The inside of the sleeve has the same cross-sectional shape across the range of movement of the stick cosmetic. Further, an opening face of the application opening is inclined by an angle of $\theta 1$ relative to the center axis A of the sleeve. Also, the outside wall thickness W1 of an outside section is smaller than the inside wall thickness W2 of an inside section (19).

(57) 要約: 本発明は口紅に代表されるような棒状化粧料をスリーブから繰り出して使用する棒状化粧料繰り出し容器に関し、棒状化粧料と、中皿と、先端部に棒状化粧料が繰り出される塗布開口が形成された筒状のスリーブと、中皿をスリーブ内で移動させる移動機構とを具備し、使用者に把持されて使用される棒状化粧料繰り出し容器であって、スリーブの内部断面形状を棒状化粧料の移動範囲にわたり同一形状とする。また、スリーブの中心軸Aに対し、塗布開口の開口面を角度 $\theta 1$ 傾けた構成とする。更に、外側部の外側肉厚W1を、内側部19の内側肉厚W2に対して薄く設定する。



OAPI (BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, ML,
MR, NE, SN, TD, TG).

添付公開書類:

— 国際調査報告書

2文字コード及び他の略語については、定期発行される
各PCTガゼットの巻頭に掲載されている「コードと略語
のガイダンスノート」を参照。

明 細 書

棒状化粧料繰り出し容器

技術分野

- [0001] 本発明は棒状化粧料繰り出し容器に係り、特に口紅に代表されるような棒状化粧料をスリーブから繰り出して使用する棒状化粧料繰り出し容器に関する。

背景技術

- [0002] 一般に、口紅等の棒状化粧料の容器としては、棒状化粧料繰り出し容器が用いられる。この棒状化粧料繰り出し容器は、大略すると棒状化粧料が装着される中皿と、この中皿を内部に移動可能に収納すると共に先端部に棒状化粧料を繰り出す開口が形成されたスリーブと、スリーブに対して中皿を昇降動作することにより棒状化粧料の繰り出し操作及び繰り下げ操作を行う移動機構とを有した構成とされている（例えば、特許文献1参照）。
- [0003] 従来の棒状化粧料繰り出し容器では、比較的直径の大きな棒状化粧料を用い、この大径の棒状化粧料をスリーブの開口から長く繰り出し、被塗布部（唇等）に棒状化粧料を塗布する構成とされていた。しかしながら、直径の大きな棒状化粧料では被塗布部に棒状化粧料を塗布する際、特に輪郭を明確に描くことができず、また棒状化粧料を長く繰り出すために使用時に棒状化粧料が折れてしまう問題点があった。特に、大径の棒状化粧料は経時的な使用により先端が丸まってしまう、輪郭を明確に描くことが更に困難となる。
- [0004] 上記の問題点を解決する棒状化粧料繰り出し容器として、特許文献2に開示されたものが提供されている。この棒状化粧料繰り出し容器では、スリーブの内径が特許文献1に記載された棒状化粧料繰り出し容器に比べて小さく、よって棒状化粧料の直径も小さく被塗布部に棒状化粧料を塗布する際に輪郭も明確に描くことができる。

特許文献1:特開2004－201907号公報

特許文献2:特開2002－355118号公報

発明の開示

発明が解決しようとする課題

[0005] ところで、近年では棒状化粧品として、使用性の良好な従来に比べて軟らかい棒状化粧品が多用されるようになってきている。このように軟らかい棒状化粧品では、これの特許文献2に記載されているような小内径のオジーブを有する棒状化粧品繰り出し容器に適用した場合、折れや変形が多発してしまう。このため、従来の棒状化粧品繰り出し容器では、軟らかい棒状化粧品を使用した場合、塗布時における使用性が悪く、また塗布部の輪郭を明確に描くことが困難であるという問題点があった。

課題を解決するための手段

[0006] 本発明は、上述した従来技術の問題点を解決する、改良された有用な棒状化粧品繰り出し容器を提供することを総括的な目的としている。

[0007] 本発明のより詳細な目的は、軟らかい棒状化粧品を用いても使用性の向上及び折れの防止を図りうる棒状化粧品繰り出し容器を提供することを目的とする。

[0008] この目的を達成するために本発明は、棒状化粧品と、該棒状化粧品を保持する筒状の中皿と、該中皿を前記棒状化粧品の繰り出し方向に移動可能に収納すると共に、先端部に繰り出された前記棒状化粧品を塗布するための塗布開口が形成されてなる筒状のスリーブと、前記中皿を前記スリーブ内で移動させる移動機構とを具備し、使用者に把持されて使用される棒状化粧品繰り出し容器であって、前記スリーブの内部断面形状を前記棒状化粧品の移動範囲にわたり同一形状とし、かつ、前記塗布開口の開口面を前記スリーブの中心軸に対して傾けた構成とすると共に、前記塗布開口における前記スリーブの前記使用者に対して外側に位置する外側肉厚を、前記使用者に対して内側に位置する内側肉厚に対して薄く設定したことを特徴とするものである。

[0009] 上記発明によれば、塗布開口の開口面をスリーブの中心軸に対して傾けた構成としたため、使用者は把持した腕を大きく曲げることなく棒状化粧品の塗布を行えるため、使用性よく塗布を行うことができる。

[0010] また、スリーブの塗布開口における肉厚を均一ではなく変化させ、外側肉厚(使用者に対して外側に位置するスリーブの肉厚)を内側肉厚(内側に位置するスリーブの肉厚)に対して薄く設定したことにより、スリーブの使用者に対する外側位置では、スリーブの外周縁と棒状化粧品の外周縁とが略同一の位置にある状態となり、よって所

望する塗布位置の特に輪郭を明確に描く(塗布する)ことができる。

- [0011] また、スリーブ自体が所望する塗布位置の輪郭部を良好に描きうる構成となっているため、塗布開口から棒状化粧料を僅かに繰り出ただけで、棒状化粧料の塗布を行うことができる。このため、従来のように棒状化粧料をスリーブから長く繰り出して塗布する必要がなくなるため、棒状化粧料の折れを防止することができる。
- [0012] 更に、スリーブの内部断面形状を棒状化粧料の移動範囲にわたり同一形状としたことにより、棒状化粧料をスリーブ内で移動させ繰り出す際に、棒状化粧料に印加される応力を小さくでき、これによっても棒状化粧料の折れを防止することができる。
- [0013] また、上記発明において、前記移動機構はクリック感を発生させる構成とされており、1回のクリックで前記棒状化粧料を1回の塗布量に対応した繰り出し量だけ移動させる構成としてもよい。
- [0014] この構成とすることにより、1回のクリックで棒状化粧料を1回の塗布量に対応した繰り出し量だけ移動させるため、必要以上に棒状化粧料を繰り出すことがなくなり、棒状化粧料の折れを防止できると共に、塗布を良好な状態で行うことができる。
- [0015] また、上記発明において、前記移動機構をラチェット機構としてもよい。
- [0016] この構成とすることにより、移動機構をラチェット機構としたことにより、繰り出された棒状化粧料が繰り下がることを防止できる。これにより、棒状化粧料に繰り下げに伴う過大な応力が印加されることを防止でき、棒状化粧料の折れを防止することができる。
- [0017] また、上記発明において、前記開口面の前記中心軸に対する傾け角度を、 45° 以上 85° 以下に設定した構成としてもよい。
- [0018] この構成とすることにより、開口面の中心軸に対する傾け角度を、 45° 以上 85° 以下に設定したことにより、塗布時における棒状化粧料繰り出し容器の使用性を向上させることができる。
- [0019] 即ち、開口面の中心軸に対する傾け角度が 45° 未満となると、棒状化粧料を塗布する際に棒状化粧料繰り出し容器を極端に立てて使用することとなり、使用性が低下する。また、傾け角度が 85° を越すと、逆に容器を極端に寝せて使用することとなり、やはり使用性が低下してしまう。

- [0020] また、上記発明において、前記スリーブの前記使用者に対して外側の外面と、前記開口面とのなす角度を、 45° 以上 65° 以下に設定した構成としてもよい。
- [0021] この構成とすることにより、スリーブの使用者に対して外側の外面と開口面とのなす角度を、 45° 以上 65° 以下に設定したことにより、塗布時における棒状化粧品繰り出し容器の使用性を向上させることができる。
- [0022] 即ち、スリーブの上記外面と開口面とのなす角度が 65° を越えると、棒状化粧品繰り出し容器の使用者が鏡を用いて棒状化粧品の塗布を行おうとした場合、塗布部分の先端際が見難くなり、特に輪郭が描き難くなる。また、塗布時に棒状化粧品繰り出し容器と使用者の手が共に鏡上の視界に入り、これによっても塗布が行い難くなる。また、スリーブの上記外面と開口面とのなす角度が 45° 未満となると、棒状化粧品繰り出し容器が極端に細くなり実用性に欠けてしまう。
- [0023] また、上記発明において、前記外側肉厚を0.2mm以上0.8mm以下に設定した構成としてもよい。
- [0024] この構成とすることにより、前記外側肉厚を0.2mm以上0.8mm以下に設定したことにより、棒状化粧料を被塗布部(例えば、唇等)に塗布する際、輪郭を明確に描くことができる。即ち、外側肉厚を0.2mm未満とした場合にはスリーブに対する塗布開口の形成が困難となり、また外側肉厚が0.8mmを越えた厚さとなると輪郭を明確に描くことが困難となる。

発明の効果

- [0025] 上述の如く本発明によれば、所望する塗布位置の特に輪郭を明確に描く(塗布する)ことができると共に棒状化粧品に折れが発生することを防止することができ、棒状化粧品繰り出し容器の使用性を高めることができる。

図面の簡単な説明

- [0026] [図1]図1は、本発明の一実施例である棒状化粧品繰り出し容器の斜視図である。
- [図2]図2は、本発明の一実施例である棒状化粧品繰り出し容器の断面図である。
- [図3A]図3Aは、本発明の一実施例である棒状化粧品繰り出し容器の塗布開口の形状を説明するための図であり、塗布開口を図3Bの矢印A方向ら見た矢視図である。
- [図3B]図3Bは、塗布開口近傍のスリーブの縦断面図である。

[図3C]図3Cは、塗布開口近傍のスリーブの横断面図である。

[図4]図4は、本発明の一実施例である棒状化粧料繰り出し容器の塗布開口の傾斜角度を説明するための図である。

[図5A]図5Aは、本発明の一実施例である棒状化粧料繰り出し容器の第1変形例を説明するための図であり、塗布開口を図5Bの矢印A方向ら見た矢視図である。

[図5B]図5Bは、塗布開口近傍のスリーブの縦断面図である。

[図5C]図5Cは、塗布開口近傍のスリーブの横断面図である。

[図6A]図6Aは、本発明の一実施例である棒状化粧料繰り出し容器の第2変形例を示す断面図である。

[図6B]図6Bは、本発明の一実施例である棒状化粧料繰り出し容器の第3変形例を示す断面図である。

符号の説明

[0027] 1A～1C 繰り出し容器

2 棒状化粧料

3A～3D スリーブ

4 中皿

5 移動機構

6 塗布開口

7 操作部

11 スクリュー

12 ラチェット機構

18 外側部

19 内側部

20 外側傾斜面

25 金属内筒

26 樹脂外筒

27 シリコンゴム製外筒

発明を実施するための最良の形態

- [0028] 次に、本発明を実施するための最良の形態について図面と共に説明する。
- [0029] 図1及び図2は本発明の一実施例である棒状化粧料繰り出し容器1A(以下、単に繰り出し容器1Aという)を示している。図1は繰り出し容器1Aの外観を示す斜視図であり、図2は繰り出し容器1Aの断面図である。また、図2では、中心線Aより右側は棒状化粧料2の繰り出し前(使用開始前)の状態を示し、中心線Aより左側は棒状化粧料2を全て繰り出した状態(使用終了)の状態を示している。
- [0030] この繰り出し容器1Aは使用者に把持された状態で使用され、棒状化粧料2を繰り出す(図中、矢印Z1方向に移動させる)機能を奏するものであるが、以下の説明においては棒状化粧料2として口紅を用いた例について説明するものとする。また、本実施例で用いる棒状化粧料2は、使用性を高める面より軟らかい材質のものが選定されている。尚、繰り出し容器1Aに適用される棒状化粧料2は口紅に限定されるものではなく、アイシャドー等の各種棒状化粧料の容器として適用できるものである。
- [0031] 繰り出し容器1Aは、大略するとスリーブ3A(外筒)、中皿4、及び移動機構5等により構成されている。スリーブ3Aは金属或は樹脂を円筒形状に形成したものであり、前記した棒状化粧料2はこのスリーブ3A内に収納されている。また、スリーブ3Aは円筒形状であるため、その内部には断面円形の中空部23Aが形成されている。この中空部23Aの直径(図2に矢印Dで示す)は、スリーブ3Aの全体(Z1, Z2方向の全体)にわたり同一直径(同一形状)とされている。
- [0032] また、スリーブ3Aの上端部(図中、矢印Z1方向端部)には塗布開口6が形成されており、棒状化粧料2はこの塗布開口6からスリーブ3Aの外部に繰り出される。また、塗布開口6は、スリーブ3Aの中心軸(図中、符号Aで示す一点鎖線)に対して後述する所定の角度を有するよう構成されている。
- [0033] また、使用者が棒状化粧料2を唇に塗布する際、塗布開口6(塗布開口6から繰り出された棒状化粧料2)が使用者と対峙する向きで繰り出し容器1Aは使用される。即ち、繰り出し容器1Aの使用時において、図2における左側が使用者に近い側(以下、内側という)となり、右側が使用者から遠い側(以下、外側という)となる。スリーブ3Aの外側には、後述するように塗布開口6に対して所定の傾きを有する外側傾斜面20が形成されている(図4参照)。

- [0034] 中皿4は、棒状化粧料2を保持するものである。この中皿4の外周部は中空部23Aの内壁と摺接しており、よって中皿4はスリーブ3A内を矢印Z1方向に移動可能な構成とされている。よって、中皿4に保持された棒状化粧料2も、中皿4が矢印Z1方向に移動することにより一体的にZ1方向に移動し、塗布開口6から繰り出される。この中皿4は、移動機構5により移動する構成とされている。また、棒状化粧料2がスリーブ3A内で移動する際、上記のようにスリーブ3Aの内部断面形状は棒状化粧料2の移動範囲にわたり同一形状とされているため、棒状化粧料2をスリーブ3A内で移動させても棒状化粧料2に印加される応力を小さくでき、棒状化粧料2の折れを防止することができる。
- [0035] 移動機構5は、操作部7、ロッド9、ラチェット機構12、及びスクリュー11等により構成されている。操作部7は、スリーブ3Aの下端部(Z2方向端部)に回転自在の構成で設けられている。この操作部7の中央には中心軸Aと同軸的に支軸部8が一体的な構成で立設されている。この支軸部8には、複数の係合溝17が放射状に形成されている。
- [0036] ロッド9は中空の棒状態であり、支軸部8を内部に挿通するよう配設される。この際、ロッド9は支軸部8に対して図中矢印Z1、Z2方向に移動可能な構成となっている。また、ロッド9の上端部には中皿4が回転可能な構成で取付けられると共に、ロッド9の下端内壁には第1の係合リブ16が形成されている。更に、ロッド9の外周には、雄ネジ部10が形成されている。
- [0037] ロッド9に形成された第1の係合リブ16は、支軸部8に形成された支軸部8に摺動可能に係合するよう構成されている。これにより、ロッド9は支軸部8に対してZ1、Z2方向に移動可能な構成を維持しつつ、操作部7が回転操作された際には支軸部8を介して操作部7と一体的に回転する。
- [0038] 操作部7の内側にはラチェット機構12が配設されており、更にラチェット機構12の上部にはスクリュー11が配設されている。ラチェット機構12は、全体がコイルスプリング形状を有しており、その先端部(矢印Z1方向端部)には複数のラチェット爪15が形成されている。
- [0039] スクリュー11の外周部はスリーブ3Aの内壁に固定されており、また内壁部にはロッ

ド9に形成された雄ネジ部10と螺合する雌ネジ部13が形成されている。また、スクリー11のラチェット爪15と対向する面には、複数のラチェット用溝14が形成されている。

[0040] ラチェット爪15は、ラチェット機構12の有する弾性力によりラチェット用溝14に向け押圧される構成とされている。この際、本実施例ではラチェット用溝14はラチェット爪15の一方向の回転(以下、正回転という)のみ許容し、逆回転を記載する構成とされている。

[0041] 更に、ラチェット機構12の下端部は、操作部7に形成された第2の係合リブ22に係合した構成とされている。これにより、操作部7が回転操作された際、ラチェット機構12は操作部7と一体的に回転する。

[0042] 移動機構5を上記構成とすることにより、操作部7を正回転方向に回転操作した際、操作部7と一体的にラチェット機構12が回転し、ラチェット機構12のZ1方向端部に形成されたラチェット爪15は雌ネジ部13に形成されたラチェット用溝14を乗り越える。この際に、使用者はクリック感を得ることができる。従って、使用者は操作部7を回転操作する際に、クリック感を得ながら回転操作することとなる。

[0043] また、操作部7が正回転方向に回転することにより支軸部8も回転し、これによりロッド9も正回転方向に回転する。前記したように、スリーブ3Aに固定されているスクリー11の雌ネジ部13と、ロッド9に形成された雄ネジ部10は螺合している。よって、ロッド9が上記のように回転することにより、ロッド9はスクリー11に対して矢印Z1方向に移動する。

[0044] これに伴い、ロッド9に取付けられた中皿4に保持されている棒状化粧料2もZ1方向に移動し、これにより棒状化粧料2はスリーブ3Aの塗布開口6から繰り出される。この際、中皿4はロッド9に回転可能な構成で取付けられており、また中皿4の外周はスリーブ3Aの内壁に摺接しているため、ロッド9が回転しても中皿4は回転することなく、よって中皿4に保持された棒状化粧料2も回転することなく繰り出される。

[0045] 前記したラチェット用溝14及びラチェット爪15のピッチ及び各ネジ部10、13のピッチは1クリック感、即ちラチェット爪15が一つのラチェット用溝14を乗り越える操作部7の回転量で、最も塗布し易い繰り出し量(図2に矢印Lで示す量)だけ棒状化粧料2

を塗布開口6から繰り出すことができるよう構成されている。従って、必要以上に棒状化粧料2を塗布開口6から繰り出すことがなくなり、軟らかい棒状化粧料2であってもその折れを防止でき、また棒状化粧料2の唇への塗布を良好な状態で行うことが可能となる。

[0046] また、本実施例では移動機構5としてラチェット機構12を用いたことにより、繰り出された棒状化粧料2が再びスリーブ3A内に繰り下がることを防止できる。これにより、繰り下げに伴う過大な応力が棒状化粧料2に印加されることを防止でき、棒状化粧料2の折れを防止することができる。尚、ラチェット機構12は必ずしも設ける必用はなく、上記した一定の繰り出し量だけ棒状化粧料2を繰り出しできる構成であれば、他の繰り出し機構を用いた構成としてもよい。

[0047] ここで、塗布開口6の形状に注目し、以下説明する。先ず、塗布開口6の肉厚について説明する。図1、図2に加えて図3A～図3Cに示すように、塗布開口6は外側部18の肉厚(図3Aに矢印W1で示す。以下、外側肉厚W1という)が内側部19の肉厚(図3Aに矢印W2で示す。以下、内側肉厚W2という)に対して薄く設定されている($W1 < W2$)。また、外側部18と内側部19との間は漸次肉厚が連続的に変化するように構成されており、よって外側部18と内側部19との間に急激に形状が変化する部位(例えば段部等)は存在しない。

[0048] このように、スリーブ3Aの塗布開口6における肉厚を均一ではなく上記のように変化させたことにより、繰り出し容器1Aを使用する際、外側部18(スリーブ3Aの使用者に対する外側位置)では、スリーブ3Aの外周縁と棒状化粧料2の外周縁が略同一の位置にある状態、換言すれば従来と同様に棒状化粧料2の外周縁のみが使用者の唇に接触しているのと等価の状態となる。よって、塗布開口6の外側部18の肉厚W1を内側部19の肉厚W2に対して薄く設定することにより、所望する塗布位置の特に輪郭を明確に描く(塗布する)ことが可能となる。

[0049] また、このようにスリーブ3A自体が所望する塗布位置の輪郭部を良好に描きうる構成となっているため、塗布開口6から棒状化粧料2を僅かに繰り出しただけで、棒状化粧料2の塗布を行うことができる。このため、従来のように棒状化粧料をスリーブから長く繰り出して塗布する必要がなくなるため、棒状化粧料2の折れを防止することが

できる。

- [0050] 外側部18の外側肉厚W1は、具体記には0.2mm以上0.8mm以下に設定されている。外側肉厚W1を0.2mm以上0.8mm以下に設定した理由は、0.2mm未満とした場合にはスリーブ3Aに対する塗布開口6の形成が困難となり、また0.8mmを越えた厚さとした場合には棒状化粧料2を塗布する際に輪郭を明確に描くことが困難となるからである。
- [0051] 更に、外側部18にはいわゆる面取りが行われており、その曲率半径は0.3mm以上3mm以下に設定されている。このように外側部18の断面形状を所定の曲率半径を有する曲面形状とすることにより、外側部18の外側肉厚W1を0.2mm以上0.8mm以下と薄くしても、外側部18が唇に触れた際に使用者に違和感(不快な使用感)を与えることを防止できる。
- [0052] 次に、塗布開口6の傾きについて、図1、図2に加えて図4を用いて説明する。本実施例では、塗布開口6の開口面をスリーブ3Aの中心軸Aに対して所定の角度(図4に矢印 $\theta 1$ で示す)だけ傾けると共に、塗布開口6の開口面を外側傾斜面20に対しても所定の角度(図4に矢印 $\theta 2$ で示す)だけ傾けた構成としたことを特徴としている。
- [0053] 具体的には、スリーブ3Aの中心軸Aに対する塗布開口6の開口面の角度 $\theta 1$ は、 45° 以上 85° 以下($45^\circ \leq \theta 1 \leq 85^\circ$)に設定されている。このように、開口面の中心軸Aに対する傾け角度を設定することにより、塗布時における棒状化粧料繰り出し容器1Aの使用性を向上させることができる。
- [0054] 即ち、開口面の中心軸Aに対する傾け角度 $\theta 1$ が 45° 未満となると、棒状化粧料2を塗布する際に棒状化粧料繰り出し容器1Aを極端に立てて使用することとなり、使用性が低下する。また、傾け角度 $\theta 1$ が 85° を越すと、逆に繰り出し容器1Aに寝せて使用することとなり、やはり使用性が低下してしまう。
- [0055] 一方、スリーブ3Aの外側傾斜面20に対する塗布開口6の角度 $\theta 2$ は、 45° 以上 65° 以下($45^\circ \leq \theta 2 \leq 65^\circ$)に設定されている。このように、外側傾斜面20と開口面とのなす角度 $\theta 2$ を設定することによっても、塗布時における化粧料繰り出し容器1Aの使用性を向上させることができる。
- [0056] 即ち、スリーブ3Aの開口面とのなす角度が 65° を越えると、繰り出し容器1Aの使

使用者が鏡を用いて棒状化粧料2の塗布を行おうとした場合、塗布部分の先端際(外側部18)が見難くなり、特に輪郭が描き難くなる。また、鏡を用いた場合には、塗布時に繰り出し容器1Aと使用者の手が共に鏡上の視界に入り、これによっても塗布が行い難くなる。一方、外側傾斜面20と開口面とのなす角度が45°未満となると、繰り出し容器1Aが極端に細くなり実用性に欠けてしまう。従って、塗布開口6の開口面の傾斜角度を上記のように設定することにより、繰り出し容器1Aを用いて棒状化粧料2を使用性よく塗布することができる。

[0057] 尚、上記した実施例に係る繰り出し容器1Aでは、スリーブ3Aの断面形状を円形としたが、この断面形状は円形に限定されるものではなく、他の形状とすることも可能である。例えば、図5A～図5Cに示すように、スリーブ3Bの断面形状を卵形状とすることも可能である。ただし、この構成とする場合には、移動機構の構成を中皿4が回転しない構成とする必用がある。

[0058] 続いて、上記した繰り出し容器1Aの変形例である繰り出し容器について説明する。図6A及び図6Bは、繰り出し容器1Aの第1及び第2変形例である繰り出し容器1B、1Cを示している。図6A及び図6Bにおいて、図1乃至図4に示した構成と同一構成については同一符号を付して、その説明を省略するものとする。

[0059] 図1乃至図4を用いて前記した繰り出し容器1Aは、金属或は樹脂を円筒形状に形成したものであり、よってスリーブ3Aは同一材質より形成されていた。これに対して第1及び第2変形例である繰り出し容器1B、1Cは、スリーブ3C、3Dを複数の材料により構成したことを特徴とするものである。

[0060] 図6Aに示す第1変形例に係る繰り出し容器1Bは、金属内筒25をシリコンゴム製外筒26で覆った構成としたものである。本変形例では、金属内筒25を完全にシリコンゴム製外筒26により覆った構成であり、よって塗布開口6(使用者の唇が触れる部位)もシリコンゴム製外筒26により構成されている。従って、塗布開口6が唇に触れた際、金属よりなるスリーブ3Aに比べ、使用感を良好とすることができる。また、金属アレルギーを有する使用者にとっても好適である。

[0061] 図6Bに示す第2変形例に係る繰り出し容器1Cは、金属内筒25を樹脂外筒27で覆った構成としたものである。本実施例では、塗布開口6において金属内筒25と樹

脂外筒27が共に視視する構成となっている。本変形例のように、スリーブ3Dの最外周部分が樹脂外筒27となることにより、樹脂は装飾処理や加飾が容易であるため意匠性に富んだスリーブ3Dを容易に形成することができる。

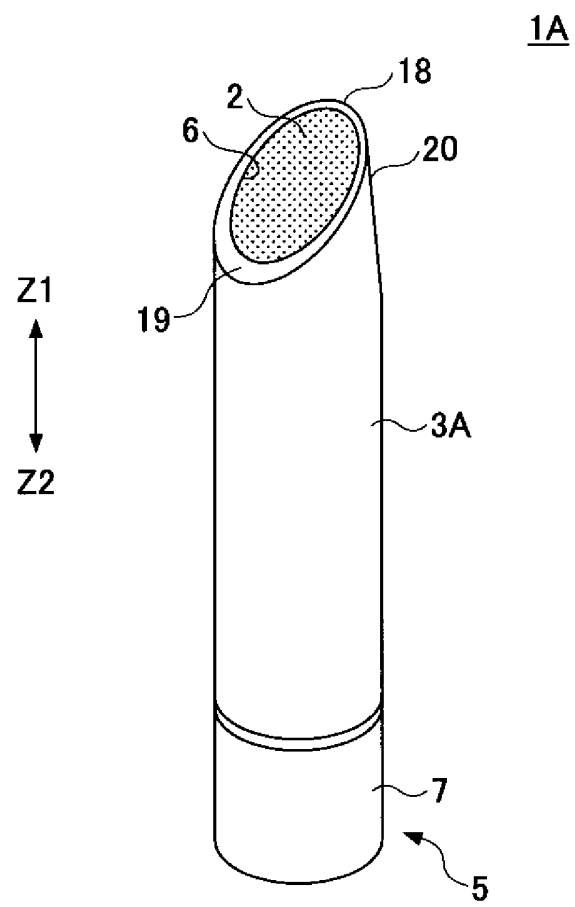
[0062] 本出願は、2004年12月9日に出願した日本国特許出願2004－357020号に基づく優先性を主張するものであり、その全内容は本出願に援用される。

請求の範囲

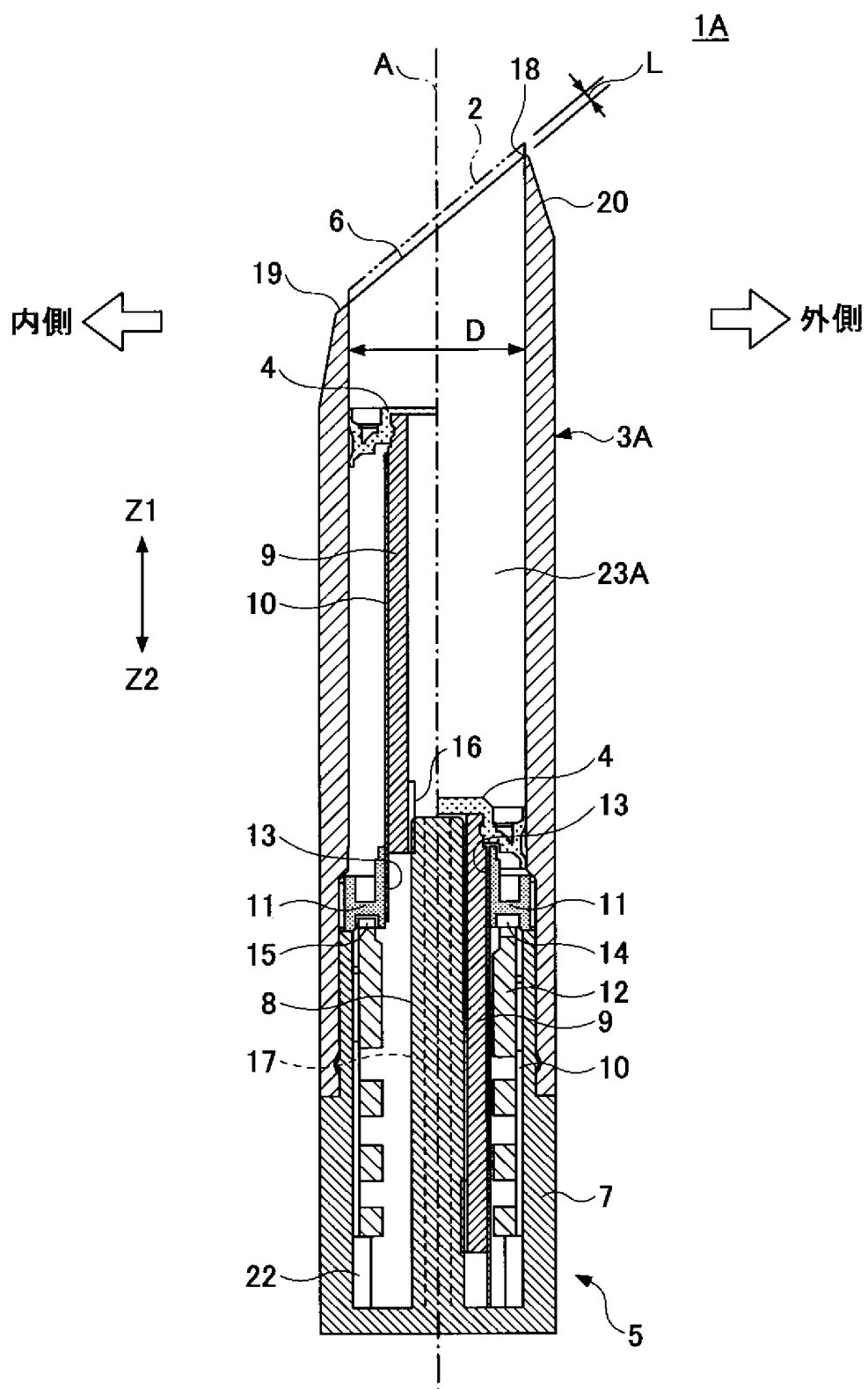
- [1] 棒状化粧料と、
該棒状化粧料を保持する筒状の中皿と、
該中皿を前記棒状化粧料の繰り出し方向に移動可能に収納すると共に、先端部に繰り出された前記棒状化粧料を塗布するための塗布開口が形成されてなる筒状のスリーブと、
前記中皿を前記スリーブ内で移動させる移動機構とを具備し、
使用者に把持されて使用される棒状化粧料繰り出し容器であって、
前記スリーブの内部断面形状を前記棒状化粧料の移動範囲にわたり同一形状とし、
かつ、前記塗布開口の開口面を前記スリーブの中心軸に対して傾けた構成とする
と共に、前記塗布開口における前記スリーブの前記使用者に対して外側に位置する
外側肉厚を、前記使用者に対して内側に位置する内側肉厚に対して薄く設定したこ
とを特徴とする棒状化粧料繰り出し容器。
- [2] 請求項1記載の棒状化粧料繰り出し容器において、
前記移動機構はクリック感を発生させる構成とされており、1回のクリックで前記棒状
化粧料を1回の塗布量に対応した繰り出し量だけ移動させる構成としたことを特徴と
する棒状化粧料繰り出し容器。
- [3] 請求項1記載の棒状化粧料繰り出し容器において、
前記移動機構はラチェット機構であることを特徴とする棒状化粧料繰り出し容器。
- [4] 請求項1記載の棒状化粧料繰り出し容器において、
前記開口面の前記中心軸に対する傾け角度を、 45° 以上 85° 以下に設定したこ
とを特徴とする棒状化粧料繰り出し容器。
- [5] 請求項1記載の棒状化粧料繰り出し容器において、
前記スリーブの前記使用者に対して外側の外面と、前記開口面とのなす角度を、 45° 以上 65° 以下に設定したことを特徴とする棒状化粧料繰り出し容器。
- [6] 請求項1記載の棒状化粧料繰り出し容器において、
前記外側肉厚を0.2mm以上0.8mm以下に設定したことを特徴とする棒状化粧

料繰り出し容器。

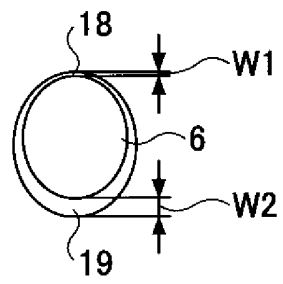
[図1]



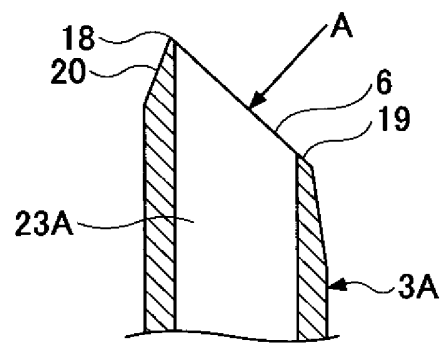
[図2]



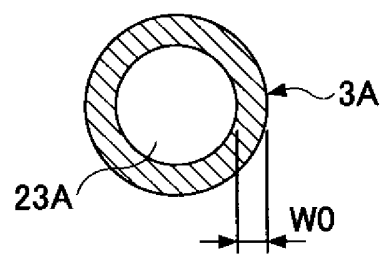
[図3A]



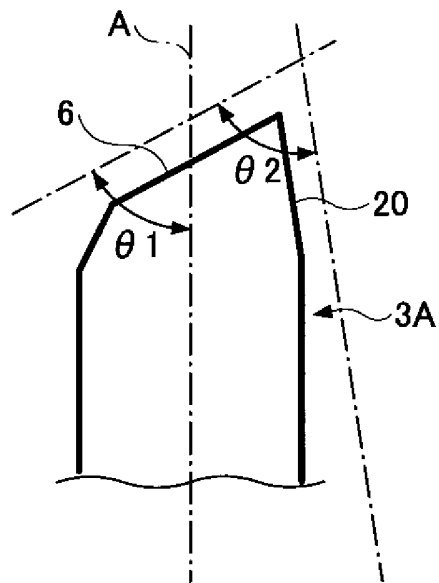
[図3B]



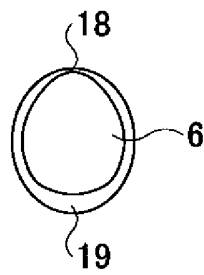
[図3C]



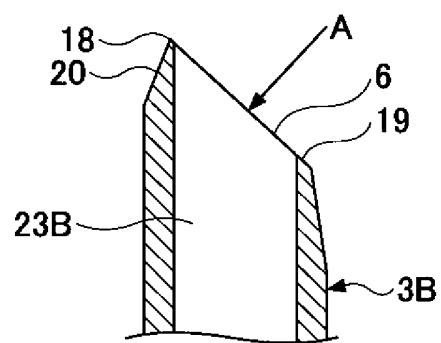
[図4]



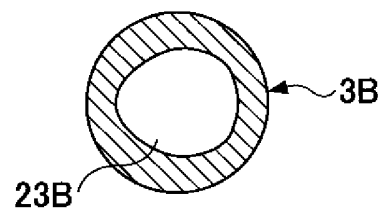
[図5A]



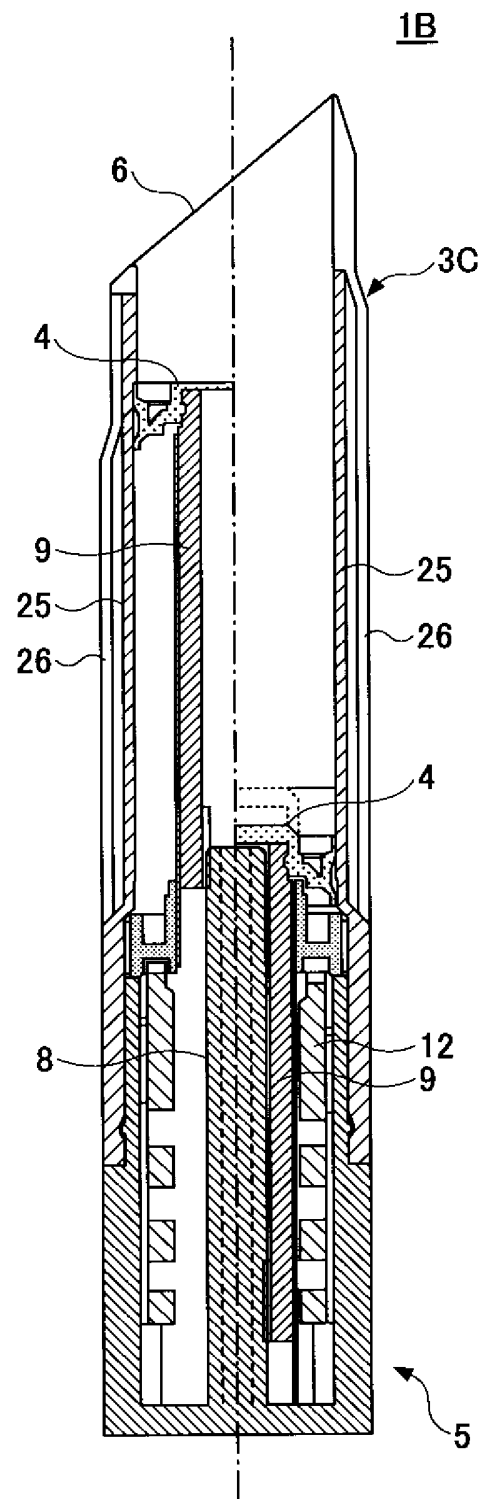
[図5B]



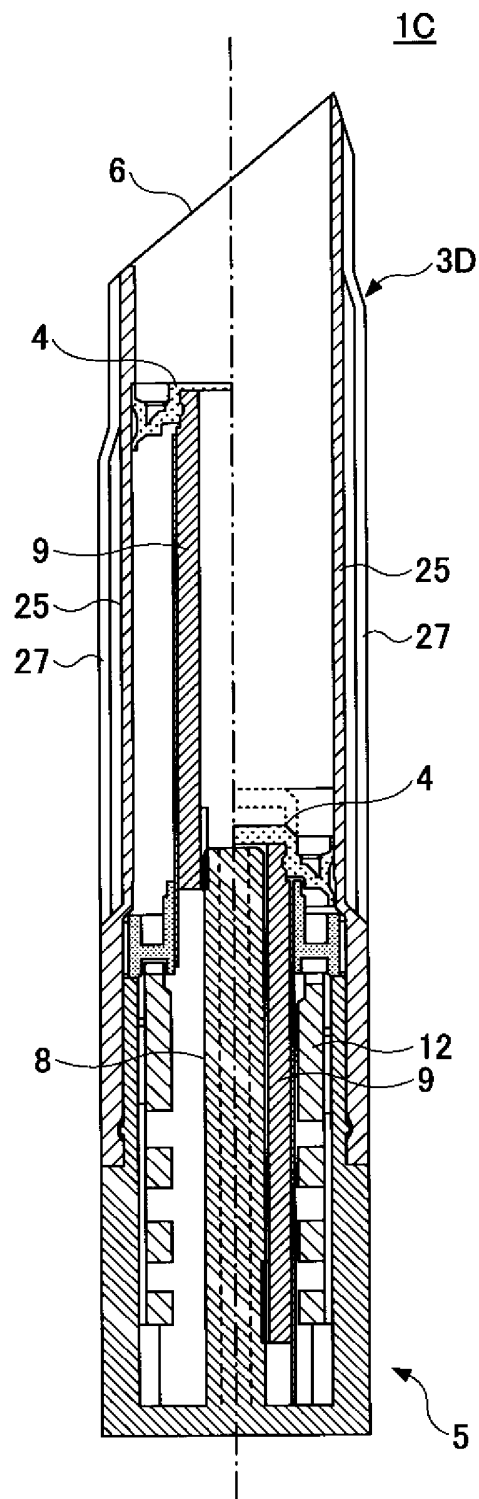
[図5C]



[図6A]



[図6B]



INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2005/022665

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER

A45D40/04 (2006.01)

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)

A45D40/00, 40/04, 40/20

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Jitsuyo Shinan Koho	1922-1996	Jitsuyo Shinan Toroku Koho	1996-2006
Kokai Jitsuyo Shinan Koho	1971-2006	Toroku Jitsuyo Shinan Koho	1994-2006

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
A	JP 2002-355118 A (Yoshino Kogyosho Co., Ltd.), 10 December, 2002 (10.12.02), Full text; Figs. 1 to 7 (Family: none)	1-6
A	Microfilm of the specification and drawings annexed to the request of Japanese Utility Model Application No. 9624/1989 (Laid-open No. 142674/1990) (Pentel Co., Ltd.), 04 December, 1990 (04.12.90), Description; page 25, lines 3 to 7; Fig. 22 (Family: none)	1-6

☒ Further documents are listed in the continuation of Box C. ☐ See patent family annex.

* Special categories of cited documents:	"T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention
"A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance	"X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone
"E" earlier application or patent but published on or after the international filing date	"Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art
"L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)	"&" document member of the same patent family
"O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means	
"P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed	

Date of the actual completion of the international search
09 February, 2006 (09.02.06)

Date of mailing of the international search report
21 February, 2006 (21.02.06)

Name and mailing address of the ISA/
Japanese Patent Office

Authorized officer

Facsimile No.

Telephone No.

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2005/022665

C (Continuation). DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
A	US 5813421 A (Der Kwel Cosmetic Packaging Co., Ltd.), 29 September, 1998 (29.09.98), Full text; Figs. 1 to 4 (Family: none)	1-6
A	FR 728208 A (M. ALEXANDRE GIMONET), 02 July, 1932 (02.07.32), Full text; Figs. 1 to 2 (Family: none)	1-6

A. 発明の属する分野の分類 (国際特許分類 (IPC))

Int.Cl. A45D40/04 (2006.01)

B. 調査を行った分野

調査を行った最小限資料 (国際特許分類 (IPC))

Int.Cl. A45D 40/00, 40/04, 40/20

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

日本国実用新案公報	1922-1996年
日本国公開実用新案公報	1971-2006年
日本国実用新案登録公報	1996-2006年
日本国登録実用新案公報	1994-2006年

国際調査で使用した電子データベース (データベースの名称、調査に使用した用語)

C. 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号
A	JP 2002-355118 A (株式会社吉野工業所) 2002.12.10, 全文、図1-7図 (ファミリーなし)	1-6
A	日本国実用新案登録出願1-9624号(日本国実用新案登録出願 公開2-142674号)の願書に添付した明細書及び図面の内容 を撮影したマイクロフィルム (ぺんてる株式会社) 1990.12.04, 明細書第25頁第3-7行、第22図 (ファ ミリーなし)	1-6

☒ C欄の続きにも文献が列挙されている。☐ パテントファミリーに関する別紙を参照。

* 引用文献のカテゴリー

「A」特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの
「E」国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの
「L」優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献 (理由を付す)
「O」口頭による開示、使用、展示等に言及する文献
「P」国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願

の日の後に公表された文献

「T」国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの
「X」特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの
「Y」特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの
「&」同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日

09.02.2006

国際調査報告の発送日

21.02.2006

国際調査機関の名称及びあて先

日本国特許庁 (ISA/J P)
郵便番号100-8915
東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官 (権限のある職員)

氏原 康宏

3R

8819

電話番号 03-3581-1101 内線 3386

C (続き). 関連すると認められる文献		
引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求の範囲の番号
A	US 5 8 1 3 4 2 1 A (Der Kwel Cosmetic Packaging Co., Limited) 1 9 9 8.0 9.2 9, 全文、第 1 - 4 図 (ファミリーなし)	1 - 6
A	FR 7 2 8 2 0 8 A (M.ALEXANDRE GIMONET) 1 9 3 2.0 7.0 2, 全文、第 1 - 2 図 (ファミリーなし)	1 - 6